

市 町 村：川西町

タイトル：交流人口の増加で中山間地農業の活性化を図る

氏名(集団名)：農事組合法人 夢里 (代表：登坂 賢治)

1 受賞者の概要

「農事組合法人 夢里 (ゆめり)」は、川西町南西部の中山間地域である東沢 (ひがしざわ) 地区で活動している。中山間地域総合整備事業で、農道や用排水路、暗渠排水が整備され、大型機械の導入や大豆・そばの転作が行われている。

平成12年にこれまでの個別の転作を、地域の生産者8名からなる大豆作業受託組織「東沢夢里生産組合」を立ち上げ、機械化体系を導入し、大豆生産を始めた。平成16年に同組合を「農事組合法人 夢里」として法人化し、農地を借入れ、稲作部門を開始し、大豆・そばとともに地域農業の受け皿となる組織として地域で信頼を築いている。また法人化を契機に、川西町に伝わる在来種「紅大豆」の生産や、高収益作物であるえだまめの生産に取り組み、中山間地域のハンデを克服しつつ活性化を図っている。



平成12年にこれまでの個別の転作を、地域の生産者8名からなる大豆作業受託組織「東沢夢里生産組合」を立ち上げ、機械化体系を導入し、大豆生産を始めた。平成16年に同組合を「農事組合法人 夢里」として法人化し、農地を借入れ、稲作部門を開始し、大豆・そばとともに地域農業の受け皿となる組織として地域で信頼を築いている。また法人化を契機に、川西町に伝わる在来種「紅大豆」の生産や、高収益作物であるえだまめの生産に取り組み、中山間地域のハンデを克服しつつ活性化を図っている。

2 特色ある活動

(1) 地域に根付く都市住民との交流による町づくり

東沢地区では、平成3年から都市との交流で地域活性化を図ろうと、川西町の花であるダリアの縁で交流のあった、東京都町田市の子供を対象に「やんちゃ留学」と名付けた山村留学事業を始めた。「夢里」の構成員が中心となってこれまで短期留学生 (夏休み、4泊5日) 約600名、長期留学生 (1年間) 40名を農家にホームステイで受け入れてきた。

(2) コメの直販、そばの収量確保、「紅大豆オーナー制度」

水稻栽培では、特別栽培米の生産に取り組み、長年の山村留学事業から交流を深めた留学生や保護者とのネットワークを形成し、米の直販を行っている。また中山間地特有の昼夜の寒暖差が大きい気候を活かして「そば」を導入し、適期作業による収量確保に努めている。さらに川西町に伝わる在来種「紅大豆」の栽培・加工体験を行う「紅大豆オーナー制度」を導入し、播種から収穫、みそ加工まで年間5回の農業体験会を開催し、交流の輪を広げている。

(3) 雇用機会の確保

令和元年7月、「夢里」では神奈川県から同町の「地域おこし協力隊」として活動していた2名 (夫婦) を従業員として周年雇用した。彼らは東沢地区の自然環境や、住民達の人柄に魅力を感じ、同地区への定住を決断し、現在、活動を共にしている。

3 今後の発展方向

地域農業の後継者を育成しつつ、生産技術の向上による収量・品質の安定化、分散する農地の集約化で生産性向上を図り、地域が協働して持続できる地域社会を目指して行く。